



使い続けるべき市街地の評価と更新手法の理論化

【プロジェクトメンバー】

- 中島伸 (東京大学先端科学技術研究センター特任助教)
- 児玉千絵 (東京大学大学院工学系研究科博士課程 1年)
- 渋谷政秀 (東京大学大学院工学系研究科修士課程 2年)
- 高橋舜 (東京大学大学院工学系研究科修士課程 1年)
- 河合孝哉 (東京大学大学院新領域創成科学研究科修士課程 1年)

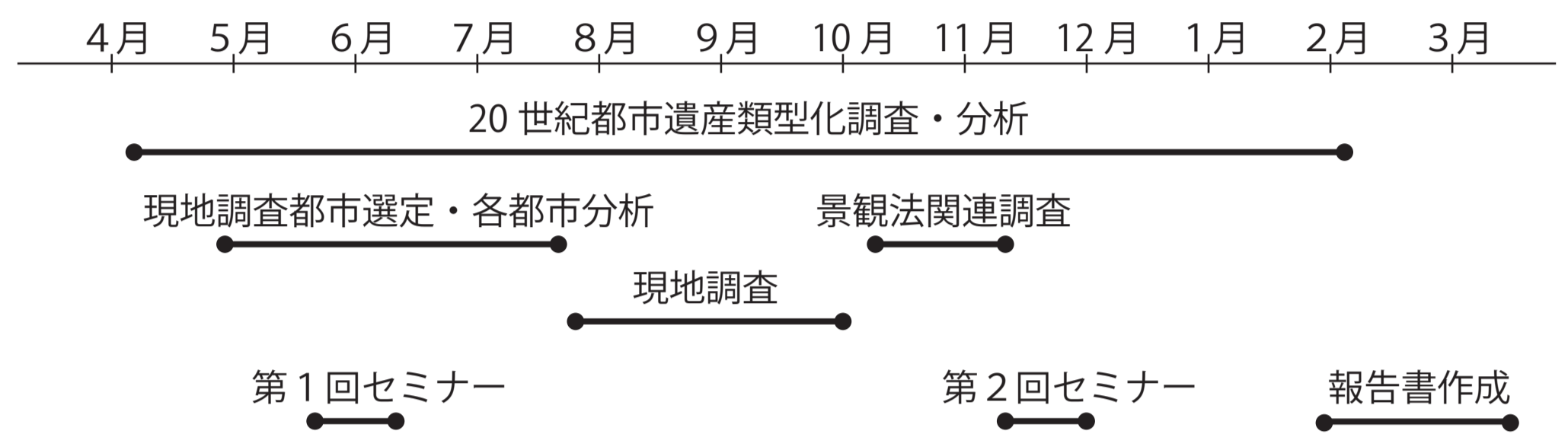
【共同協力研究者】

- 渡辺定夫 (東京大学名誉教授)
- 西郷裕之 (市浦ハウジング&プランニング)
- 平井充 (住宅・都市問題研究所)
- 土田旭 (株式会社都市環境研究所)
- 谷口雅彦 (株式会社都市環境研究所)
- 兼森毅 (株式会社都市環境研究所)
- 下間久美子 (文化庁)
- 市原富士夫 (文化庁)

プロジェクトの概要

近代化後、急激な人口増加・都市成長を経験したのが 20 世紀という時代であったが、そうした 100 年間に形成された市街地のうち、今後の人口減少・都市縮退の時代においても使い続けるべき市街地——「20 世紀都市遺産」を評価し理論化を試みるのが本プロジェクトの目的である。初年度となった 2014 年は、共同協力研究者の方々と意見交換を定期的に行いながら、主として 144 都市を対象とした 100 年間の成長パターンの類型化と、外部専門家等を交えたセミナーの開催、そして 18 都市を対象に現地調査を実施した。

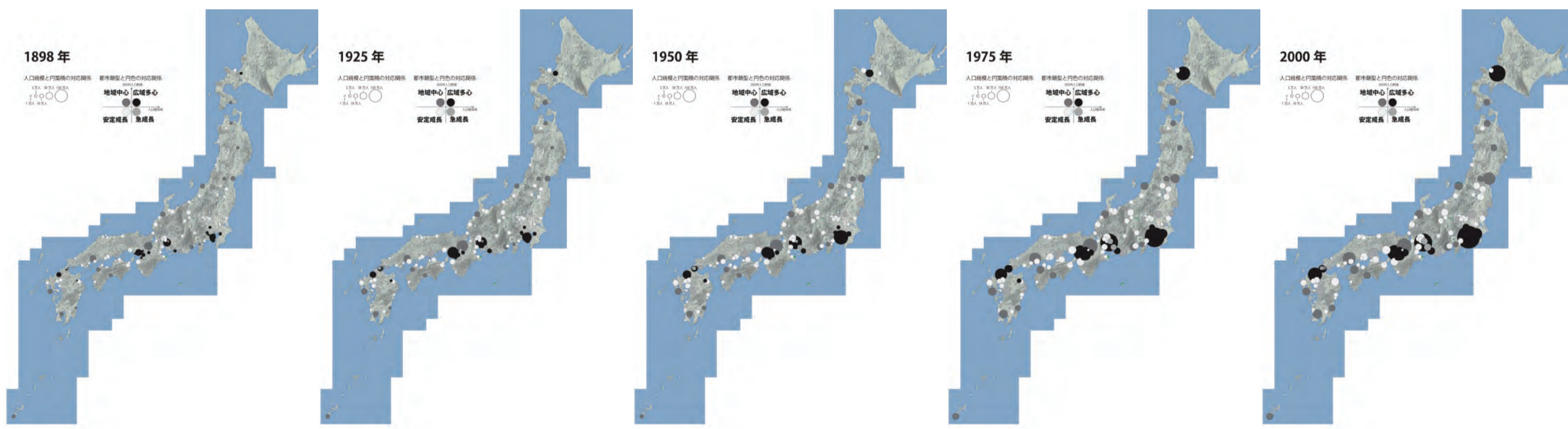
2014 年度活動履歴



2014 年度の取り組み

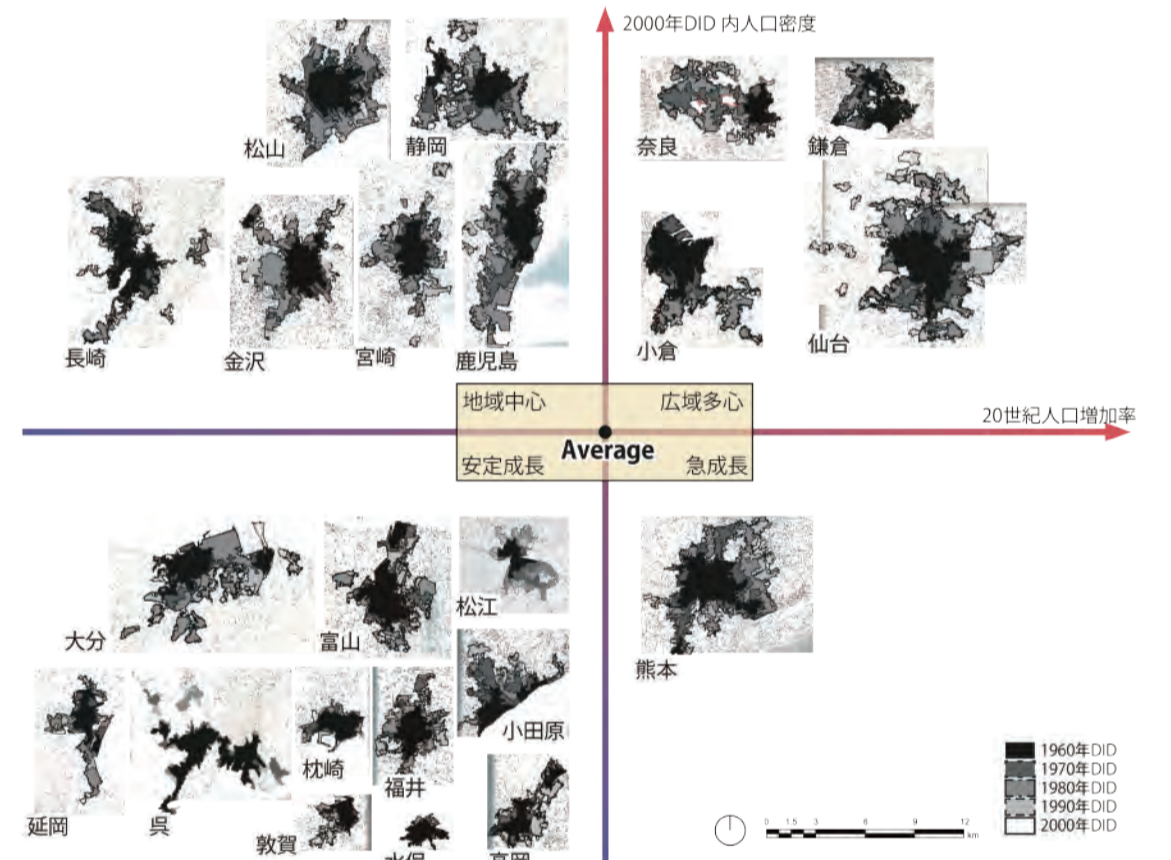
■ 100 年間の都市形成パターンの類型化

全国 141 市を対象として、100 年間で都市の人口増加率および市街地人口増加率の全市平均との比較によって、都市形成パターンを「広域多心都市」、「地域中心都市」、「急成長都市」、「安定成長都市」の 4 類型に分類した。



■ 各類型の個別都市の分析

各都市の人口動態・計画・事業履歴に着目し、個別の都市形成の実態を明らかにすることを試みた。

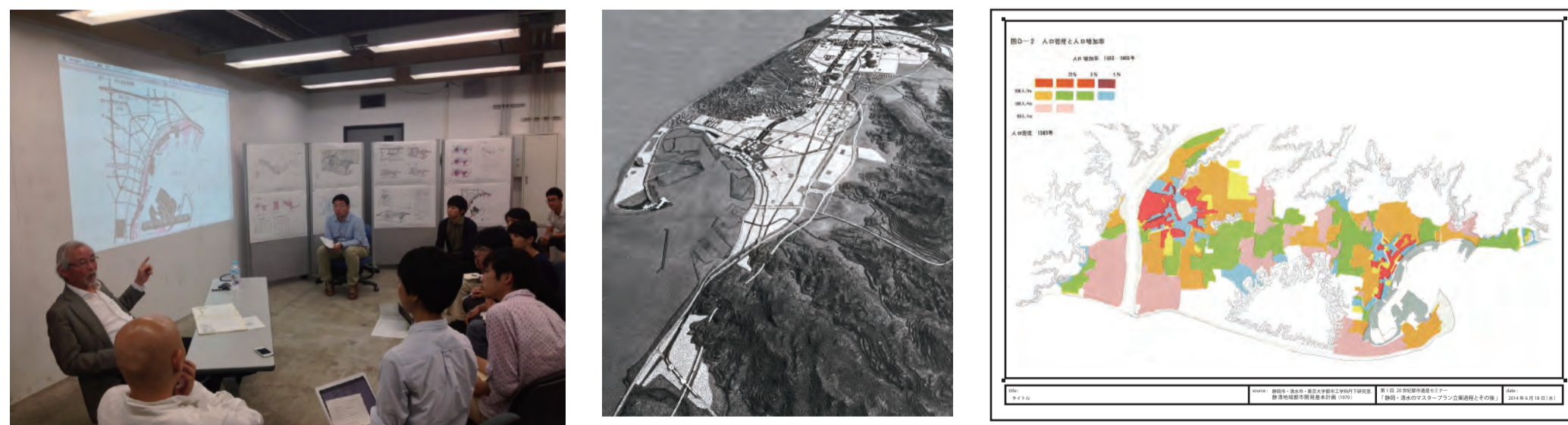


セミナーの開催

第 1 回：「静岡・清水のマスタープラン立案過程とその後」

【ゲスト】：東京大学名誉教授 渡辺定夫先生

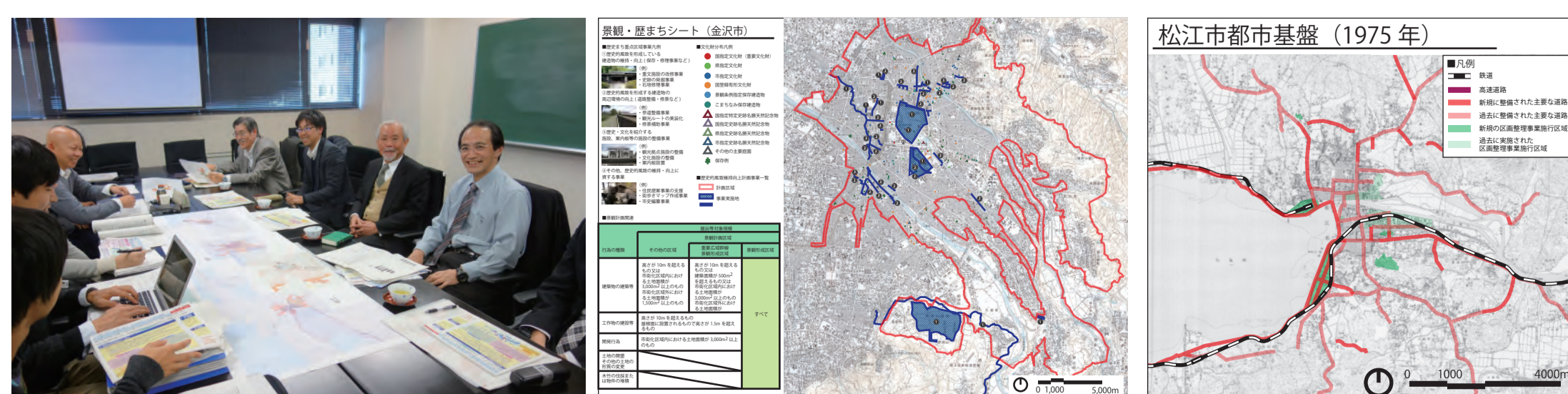
「静清地域総合開発計画」の立案当時の話とその後の実際を見比べ、その影響を考察した。また立案当時のエピソードを語って頂いた。



第 2 回：「景観法成立以降の景観行政の歩み」

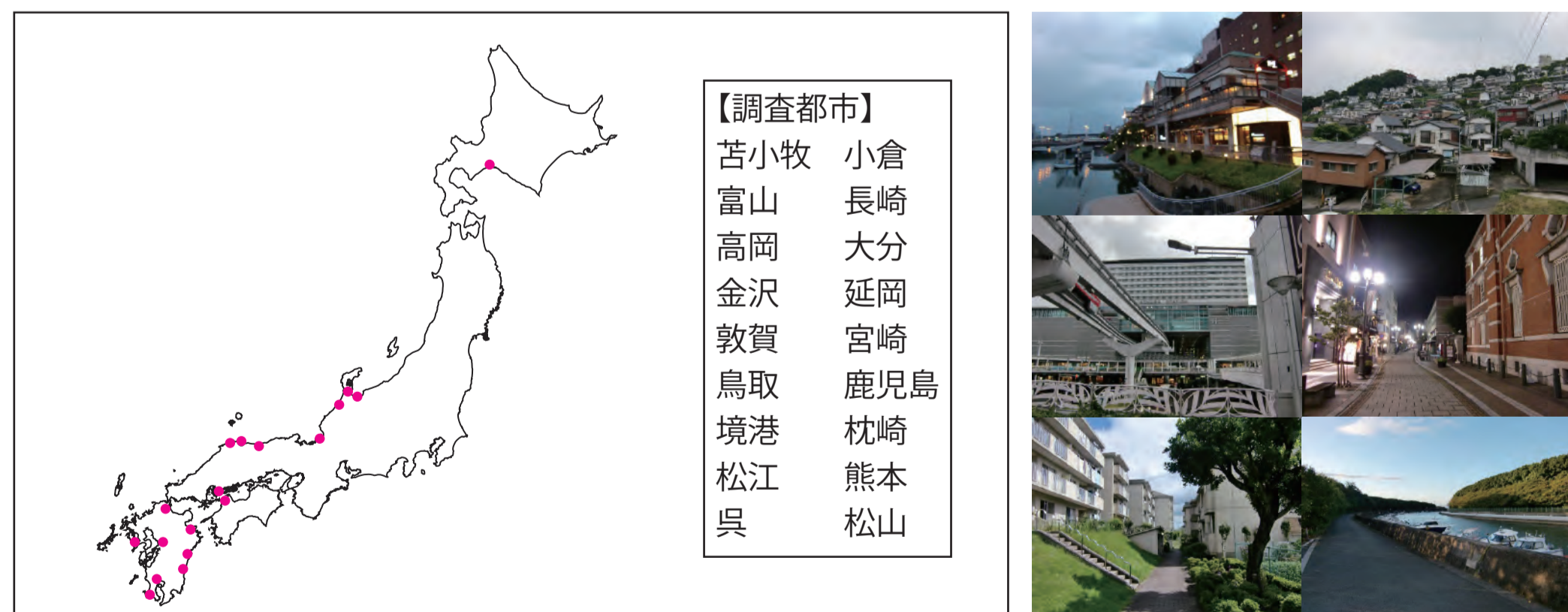
【ゲスト】：舟引敏明氏 (国土交通省)、石橋隆史氏 (国土交通省)

公園緑地・景観関係の事業制度を取り上げ、各制度が都市形成に与えた影響を検証し、今後の都市像を考える意見交換を行った。



18 都市を対象とした現地調査

調査対象都市の中から 18 都市を選択し現地調査を行った。データや地図等による資料調査から想定された市街地像と現況の差異を確認し、現場を歩くことで見えてきた気づきをその後の分析へつなげていった。



2014 年度の成果と今後

2014 年度は、DID を中心とした市街地の密度分析から、典型的な都市形成パターンと特徴的な都市の抽出を行い、20 世紀の都市成長とインフラ整備を把握した。

今後の展望としては、①20 世紀の都市成長類型化の精緻化、②都市の市街地をさらに物的環境として取り上げ、都市縮退時代の都市更新のための基盤評価手法 (インフラ整備の歴史的評価、拙速市街地の縮退方法の検討、居住誘導区域外の幸せな生活像の模索)、③具体的な都市でのフィールドワークの実施を目標としている。